



## 市民総ガイド構想

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催され、多くの外国人が日本を訪れます。日本を訪れる外国人は、オリンピックの開催地周辺の東京都市圏のみならず、全国各地を周遊することが見込まれます。最近の外国人の日本の観光に対する趣向が、有名な京都・奈良の観光地を見て、一流のホテルに宿泊し、電化製品を土産にするこれまでのパターンから、地方の風景や生活様式、芸能や文化を鑑賞・体験し、田舎の旅館や民泊で宿泊する傾向になってきていると思われます。本市には、毛利元就の居城郡山城（日本百名城）・甲立古墳の2つの国指定史跡や、伝統文化・芸能として、神楽・田楽があります。特に神楽については、市内22神楽団の協力による年間150日間の定期公演をはじめ、高校生の神楽甲子園、ひろしま安芸高田神楽東京公演を通じ、全国に魅力を発信し、皆様から好評を得ています。また、広島市を中心とする広域都市圏の神楽まち起こし協議会（会長安芸高田市長）では、広島県の協力のもとメキシコ・ブラジル・フランス（パリコレ）など全世界に神楽を発信し

成果を得ているところがあります。宿泊についても、既存の旅館に加え、神楽門前湯治村・たかみや湯の森・エコミュージアム川根などの宿泊施設はもちろん、数多く点在する未利用施設のお寺・空家がありますので、これら魅力的な施設を活用することが大切と考えます。

これまで外国人に意思を伝達する場合、英語・中国語・韓国語等の外国語を使うことが一般的でしたが、外国語を学ぶということは、大変難しいことと思います。特に日本では、文法等の形式が重視され、外国語が活用できにくい現状があります。また、社会教育の一貫として、公民館活動等で市民向けに講座を開いても、外国語を使いこなせるまでには至っていません。

そのような状況の中、2020年から新しい学習指導要領により、小学校で外国語（英語）が教科になります。いままで週1時間、聞く・話すを中心とした英語に慣れ親しむことを目的に5・6年生で実施していたことを3・4年生で実施することとし、5・6年生は新たに週2時間の外国語教科を新設し、体系的に教科

として学ぶこととなりました。

一方で現状、多くの市民の皆様は、外国語に対して非常に抵抗があるように思います。今後、市の活性化のためには、日本人・外国人のいかなる人に対しても、意思を相手に伝えていくことが大切であります。相手の顔を見て話すことや手紙などの手法については、これまで同様、原点として大切にしたいと思います。さらに私は、「市民総ガイド構想」と題して、たとえ語学が不得意であっても、身振り手振りで相手に意思を伝える「原体験」、スマホの「翻訳機能の活用」を通して市民の皆様が全員ガイドとして、ご活躍いただける仕組みを構築していきたいと思

